

と曰ふ。蓋し吐爾番は回語都會の意。因て又烏什吐爾番とも曰ふ。

第九節 阿克蘇より喀什噶爾に到る

一、地方官飲料水を贈る

阿克蘇河
と迂回

七月二十四日阿克蘇を發す、道は南方を指して行くこと約二里、阿克蘇河に達す。河水散漫處々深水を湛え騎渡すべからず。因て左岸を下ること五里餘、ベシテメ(人家三)に到りて渡船に投ず(渡河約七分)此より其の左岸を下る一小路を連續南下せば十八日程を要し和闐ホーテンに達するも、沼澤地多きが故に冬季の外は過ぐべからずと。渡河の後、右岸に沿ふて溯るもの三里弱茲に本道と相合し、ベシオスタン、巴什巴什バシを経て更に西南に向ひ、翌二十五日午前五時行程約十二里にして艾庫里アインコルに着す。

二十五日午後四時四十分出發、薩依里克サイイリク、皇墾ホワンコンを経て喬里呼圖克チョリホトクに着す、薩依里克は人家附近合て二百五十戸あるも皇墾は僅に四五戸あるに過ぎず。此處を過ぐれば全く沙磧地となる。翌二十六日九里餘の間、只二家に接するのみ。午後十一